

case no.48

株式会社イトデンエンジニアリング ROBO DINING手延べの掟

飲食店開業セミナーや専門家派遣を積極活用

company profile

創立：1948年（昭和23年4月1日） 事業内容：産業機械設計製作施工 手延べそうめん専門店

1. 本業で培ったロボット技術を集約
2. 最高の美味しさをオートメーションで提供
3. さらに開発した機器の販売も計画

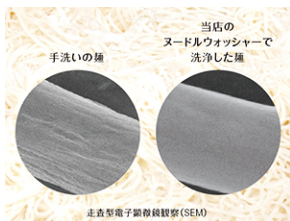
ザクッと言うと **3** ポイント

今回の事業再構築補助金活用についてお聞かせください。

フードテックへの更なる参入に向け、自社内で以前より何度もチャレンジしておりましたが、なかなか採択に至らず、最後に中央会様へ支援を依頼しました。中央会様は、過去に多くの支援実績があり、採択への知見もあるため、提出書類の準備等に丁寧なサポートをいただきました。お陰様で令和4年7月に事業再構築補助金に採択され、さらに飲食店開業セミナーなどにも参加し、令和5年7月に「ROBO DINING手延べの掟」をオープンしました。



「ROBO DINING手延べの掟」は、姫路おみぞ筋商店街の魚町通に面した角にあります。



最適タイミングで茹でる、熱々の麺を瞬時に洗い引き締めます。ロボットならではの調理です。

5回目の申請での採択、困難な挑戦と伺いましたが、特に苦労した点はございますか？

当初は、本業の産業機械製造のノウハウを活かしフードテックに参入することを目指しましたが、同時に叶えたい目標が沢山あり、それらを文章に簡潔にまとめることが特に難しかったです。それは、下記の事柄です。

- ・ロボットが調理することで、人が作るよりもおいしい調理を実現する
- ・地場産業のそうめんを自宅以外で気軽に飲食できる場を提供する
- ・省人化で人材不足に貢献できる店舗を構築する
- ・稼働する飲食店が弊社のショールームとして機能する

このような夢の実現に向け、プロジェクトを進めて来ました。



ありそうでなかった素麺専門店。食通の伊藤社長が専門家の指導も受け幅広いメニューを揃えました。

今回の挑戦で良かったと感じたことを教えてください。

そうめん専門店を立ち上げたことが地域文化への貢献につながればという思いがあります。姫路を中心とする播磨地域は、そうめんのブランド「搦保乃糸」発祥の地ですが、生産者の高齢化で産業の担い手不足が深刻化しているとも聞きます。ロボットを使ってそうめん文化を盛り上げることで、若年層の需要を増やし、担い手問題の解決に寄与したいですね。



調理以外にも伊藤社長の拘り！饅頭は人の削る100分の45mmの厚みから、特製の削り器で1000分の8mmを実現！

今後の展望などお聞かせください。

「ROBO DINING手延べの掟」を無事に開店出来ました。これはゴールではなくスタートラインに立てたという意識をしています。お陰様でテレビ・雑誌等の取材も多数お声がけ頂き、実際にメディアを通じてお店に足を運んでくれるお客様も多く、その反響には大変感謝しております。今後もこの店舗が機械製造のショールームとして役割を果たすことができるように、商品そのもののブランディング、お店のマーケティングで集客に努めつつ、製造装置および接客そのものの自動化など、益々ブラッシュアップしてお店のレベルを向上させていきたいです。

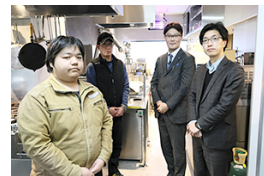


お客様がテーブルから専用タブレットでオーダーすると、調理ロボットが調理をスタートします。

今後、同様の取り組みを検討される団体様へメッセージがあれば

この度は、中央会様のご支援を仰ぎ、異業種参入のチャレンジを行うことが出来ました。その中には、兵庫県中央会傘下のHyogo-UBA会員企業の皆様から専門性の高い技術をお借りしたり、日頃の情報共有の中から得たヒントが大変役に立ちました。

※ Hyogo-UBA (United Business Association) とは、兵庫県中小企業青年中央会の略、兵庫県下の協同組合等青年部を会員とし、県下一円を網羅する最大の異業種青年部団体です。



キッチン内で記念撮影
写真右より中央会担当阿部氏、伊藤社長と2名のロボットエンジニア

最後に中央会へのご要望等ございませんか？

人との交流を重ね、新しい知識・情報を取り入れて経営に活かして行きたいです。今後も新たな出会いにも大変期待をしているので、兵庫県中央会様をハブにしたネットワークを継続して広げていければと考えています。

引き続きのご支援を宜しくお願い致します。

---2024年3月

担当者からひとこと

私が別に事業担当しております兵庫県中小企業青年中央会（呼称：Hyogo-UBA）の繋がりでご相談いただき、この度、支援をさせていただきました。同社が所属する団体含め昨今の組合、とりわけ若手で構成される青年部の会員減少は組織の存続を脅かす深刻な事態となっております。そのような状況下で組織の基盤とも言える会員＝個社を支えることが問題改善の一助になると考え、補助金の採択から始まり、開業支援、開業後のフォローアップ、更には開発過程で青年部企業の協力（メンバーシップビジネスの活用）を得ながら、中央会としても珍しいシームレスな支援に挑戦させていただきました。今後は同社の事例に続く企業が現われるよう周知し、組織活性化に資する流れを作ることができれば、中央会・青年中央会の支援機関としての新たな魅力を示すことができると考えております。



担当者：阿部